

第2次長野県教育振興基本計画の構成（案）

教育総務課

I 計画策定の基本的な考え方

1 策定の趣旨

※第1次計画がH24で満了。教育を取り巻く環境変化や新たな課題が明らかになる中で、新たな教育施策の方向性を示す

2 計画の性格

※教育基本法に基づく、地方公共団体における教育の振興のための施策に関する基本的計画

※県総合5か年計画に対応する教育分野の計画

【注】計画の対象範囲

- ①教育委員会が所管する教育に関する事務（公立学校教育、生涯学習・社会教育、文化財保護、スポーツ等）
- ②首長の権限に属する教育に関する事務（大学教育、私立学校、文化芸術等）
- ③教育と、福祉・雇用など他の行政分野との境界領域で、教委と知事部局が相互に連携して進める施策・事業

3 計画の期間

※平成25年度～平成29年度（県総合5か年計画と整合）

II 本県の教育をめぐる情勢

1 時代の潮流と教育の課題

※計画策定に当たって考慮すべき社会情勢とそれに係る教育課題の認識

【記載内容（例）】

- 人口減少社会の到来
 - 人口減少の中で教育の質の維持が課題
 - 地域コミュニティの活力維持が課題
- 価値観の変化
 - 文化活動やスポーツ活動に対するニーズの高まりへの対応
- 成熟した経済
 - グローバルな視点を持ち、新たな価値を生み出せる人材の育成が必要
- グローバル化の進行、情報通信技術の発達

- 外国語によるコミュニケーション能力や情報活用能力の育成が必要
- 地球規模での環境問題
 - 自然体験、環境教育の必要性
- 安心・安全な社会への要請
 - 教育格差による格差の再生産・固定化の懸念
 - キャリア教育の必要性
 - 東日本大震災の教訓を生かした教育の必要性
- 変革が求められる社会システム
 - 社会を担う多様な主体の育成・支援
 - 持続可能な学校のあり方を考える必要性

2 本県教育のポテンシャル

※基本計画に生かしてける長野県教育の特徴、優れた点の認識

【記載内容（例）】

- 教育を重視する県民性
 - ・教育への投資を惜しまない
 - ・県民の向学心が強い
 - ・地域の子どもは地域で育てる気風
- 体験学習の重視
 - ・実体験を重視した指導
 - ・学校登山等多彩な学校行事
- 伝統を受け継ぐ地域
 - ・伝統文化が守られている
 - ・美術館、博物館が多い
- 教師の自己研鑽
 - ・自主研修組織が活発
 - ・具体の授業を通じた研修

Ⅲ 長期的な教育振興の方向

※総合5か年計画の「長期的な県づくりの方向」と整合させる（時代の転換点を迎える中で、今生まれた子どもが成人するときに、どのような長野県を引き継ぐべきかという思いの象徴として概ね20年後の方向を提示）

1 基本理念

※県全体で長野県教育の振興に取り組むための基本理念を提示

【記載内容（例）】

「○○○○○○○○（教育立県）」

（誰もが生涯にわたって意欲をもって学ぶことができ、社会の中で、子どもから高齢者まで個々人が能力を十分発揮している信州を創造）

2 めざす教育の姿

※県民みんなでめざす 20 年後の長野県教育の姿

【記載内容（例）】

- （人間力を養う）
子どもたちが確かな学力と人間性を身につけている。
- （行きたくなる学校）
全ての子どもが満足感を持って学校生活を送っている。
- （自然の中でたくましく）
子どもたちが自ら進んで運動に親しみ、基礎体力が向上している。
- （個性輝く）
障害の有無などに関らず支援を必要とする子どもたちへの教育体制が整備されている。
- （常に学び続ける）
誰もが生涯を通じて学び、自らを高めることで、人生を充実させている。
- （感動との出会い）
文化芸術やスポーツなど人生に彩を与える環境が整っている。

IV 基本施策（5か年の取組み）

※計画期間中に総合的に取り組む施策の内容

1 施策の基本的方向

※5か年間でめざす教育の基本目標を、第1次計画の基本目標（平成30年目途）をベースに設定

【記載要旨】

①「知・徳・体が調和し、社会的に自立した人間の育成」

《目標の視点》

- ・自立した社会人を育てる教育
- ・自然や歴史・文化を生かして感性を磨く教育
- ・子どもたちのもてる力を伸ばす教育
- ・地域を担い、社会をリードしていく人材を育てる教育

②「多様性を認め、共に生きる社会の実現」

《目標の視点》

- ・一人ひとりのニーズに応える教育
- ・困難を抱える子どもたちを支援するネットワーク形成

③「社会全体で共に育み共に学ぶ教育の推進」

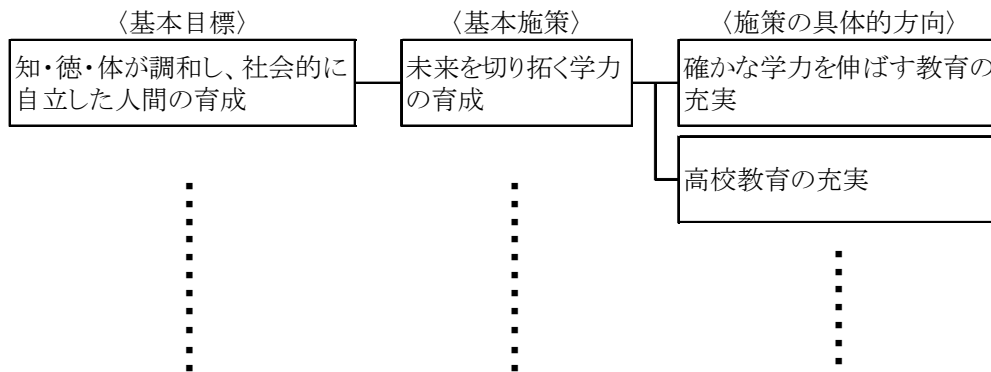
《目標の視点》

- ・学校・家庭・地域の連携により社会全体で取り組む教育
- ・生涯を通じて学び、文化やスポーツを楽しむことのできる環境整備

2 施策体系

※計画期間中に取り組む施策を体系化

(体系例)



3 重点プロジェクト

※計画期間中、特に重点的に取り組む目標と方策を明らかにするプロジェクトを設定

(具体的には総合5か年計画の重点プロジェクト、専門員会提言、分野別計画・方針の重点的取組等を踏まえて設定)

4 施策の展開

※体系化した施策の方向性ごとの現状・課題とめざす成果(目標)、目標達成に向けた具体的な施策を明示

※専門委員会の提言、分野別の計画・方針の要素を盛り込んで構成

【記載内容】

(1) ○○○○○○ ※基本施策(項目名)

① ○○○○○○ ※施策の具体的方向(項目名)

現状と課題

※教育施策の現状・課題と現行計画の評価

《現行計画の達成目標の進捗状況記載》

成果目標

※施策の受益者(児童生徒、県民、社会等)にとってどのような成果を目指すのかという視点で設定。合わせて、目標の達成度を測定する指標を提示

具体的施策

※成果目標の達成に向けて実施する取組

V 計画の実現に向けて

※計画の着実な推進に向けた、教育行政に取り組む基本姿勢

【記載内容（例）】

- 教育制度のあり方検討などを踏まえた行財政改革の推進
- 市町村、NPOなど多様な主体との協働、連携
- 政策評価、教育委員会の事務の管理執行に関する点検・評価による実効性確保

○計画策定の趣旨
私達は、今、時代の大きな転換点に立ち、今までの暮らし方を見つめ直すとともに豊かさや幸せの新たな尺度が求められている。この計画により、長野県の将来像を県民と共有し、一緒に創り上げるための方向性や方策を明らかにする。

○計画の性格
直面する課題に向き合い、めざす姿への確かな一歩を踏み出す県政運営の基本となる総合計画

○計画の期間
平成25～29年度（5か年間）

◎第1編 現状認識

○時代の潮流と課題
1 到来した人口減少社会
日本の総人口は、近年横ばいで推移しており今後は減少する見込み。長野県では、平成13年から人口が減少し、今後20年ほどで約30万人減少する見込み。特に中山間地域などで急激に人口減少や高齢化が進行し、地域によっては、将来集落機能の維持が困難になることが懸念される。→人口減少スパイラルを断ち切るとともに、人口減少社会・高齢社会にあって、どのように高齢者を支え、社会の活力を維持していくかが課題
2 価値観の変化
人々の価値観が変化し、モノの豊かさに加え精神的な満足感や暮らしのゆとりを重視するようになっている。また、東日本大震災の発生を契機に、人々は生き方を見つめ直し、家族や地域社会とのつながりをより重視するよう価値観を変化させた。→価値観の変化を的確に捉え、長野県のポテンシャルを活かして、それぞれの多様なライフスタイルが実現できる社会をいかに創造していくかが課題
3 成熟した経済
日本経済は旺盛な内需の拡大により成長してきたが、物質的な豊かさが相当程度実現された上、今後人口が減少していくことから、かつてのような国内需要の大幅な伸びは期待できない。長野県経済は、円高の進行やアジア諸国の工業力の台頭に伴い、主力となる製造業が生産拠点の海外移転をせまられ厳しい状況が続いている。→国内需要の大幅な伸びが見込めず、海外との競争が激化する中において、どのように長野県経済の活力を維持していくかが課題
4 変革が求められる社会システム
少子高齢化社会の到来により社会保障制度や国や地方の財政基盤の持続可能性が危ぶまれている。また、東日本大震災により、現代社会の脆弱性が明らかになった。→これまでの発想の延長線上だけでは解決できない課題が生じている中において、高い経済成長に依存したシステムからの転換を図り、県民が自ら考え行動しともに支え合い持続可能な社会を創造していくことが課題

○長野県のポテンシャル
1 大地から与えられた恵み
(1) 美しく豊かな自然環境
豊かな自然や美しい景観に囲まれ、太陽光や水力、バイオマスなど豊富な自然エネルギーが潜在している。
(2) 大都市圏への近さ・交通の結節点
日本の真ん中に位置し、首都圏・中京圏から比較的近く、東・西日本、太平洋側と日本海側をつなぐ結節点として交通の要衝となっている。
2 先人が築いてきた努力の賜
(1) 全国トップレベルの健康長寿
平均寿命や高齢者の就業率が高く、年齢調整死亡率が全国最低である全国トップレベルの健康長寿県となっている。
(2) 教育を大切にす風土と県民性
明治期以前からの教育熱心な県民性、身近な公民館活動などを通じ、教育を大切にす風土と県民性が育まれている。
(3) 伝統を受け継ぐ地域
地域ごとに有形無形の多様な文化を受け継ぎ、地域の誇りを守り育てている。
(4) 企業家精神を育む土壌
時代の変化に柔軟かつ果敢に挑戦する企業家精神が、地域の中で受け継がれている。
3 際立つ地域の個性
「大地から与えられた恵み」と「先人が築いてきた努力の賜」が重なり合って、様々な表情を持つ多様な地域が、信州の魅力を引き上げている。

◎第2編 長期的な県づくりの方向



◎第3編 重点的に取り組むプロジェクト
(「20年後のめざす姿」の実現に向け、最初の5か年間(計画期間)で特に重点的に取り組む施策(5年間で達成すべきもの、中長期で達成すべきもの))
(プロジェクトの例) ・健康長寿日本一プロジェクト ・エネルギー自給プロジェクト ・強みを活かした長野県観光推進プロジェクト

◎第4編 県づくりのための基本施策
(政策分野の例) ・産業・雇用 ・地域づくり ・環境 ・安全・安心 ・社会基盤 ・健康・福祉 ・教育・子育て

◎第5編 各地域が目指す方向とその方策
(県内10地域ごとの目指す方向と方策)

◎第6編 計画を推進するための基本姿勢
・行政・財政改革の推進 ・市町村との協働 ・政策評価・事業点検による実効性の確保